

### 5カ国・地域から来町、初の国際文化フォーラム



東川町と関係の深い交流都市との文化交流を深めよう、と東川町は1月19日から3日間、初の国際文化フォーラムを開きました。姉妹町のラトビア・ルーイエナ町はじめ海外5カ国・地域から20人が来訪しました。

町文化芸術交流センターで歓迎交流会、交流夕食会、文化芸術セミナー、国際文化フォーラムを開き、ラトビア・ルーイエナ町のグンテス・グラドキンス町長、タイ・ノンタブリー市のタナポン・タナデーチャーケン副市長、韓国・ヨンウォル(寧越)郡のパク・ソンギョ郡守、日本ウズベキスタン・シルクロード財団のバヒリディノフ・

マンスール代表理事、台湾の写真家、チン・シヨウリョウ(沈昭良)さんらが出席しました。

それぞれ自国や各町を紹介。東川町は家芸工芸、大雪山、写真3つの文化が町の文化を創出していることを紹介しました。

松岡市郎町長は「文化が皆さんをつなげてくれる。出会いが生きる。いろいろな文化を見て刺激を受け、刺激の中から成長を促すものが生まれる。これからもいろいろな情報を交換し、友情をさらに強めたい。文化、芸術、スポーツ、教育のベースとして、さらに経済活動とつながっていくことを期待したい」と今後の交流発展に期待を表明しました。

### 新成人の誓い新たに

1月8日、町文化芸術交流センターで平成29年成人式を開きました。

対象126人中、80人が出席しました。昨年2月から農業研修にきているベトナムの農業研修生、旭川福祉専門学校と町の日本語学校で日本語を学んでいるベトナム、タイ、韓国からの留学生も参加しました。

ベトナム、タイには成人を祝う行事習慣はないそうです。貴重な体験になったようで、会場いっぱいのおでやかな振袖姿の参加者の姿に「みんなきれいでびっくりした」と興味深げ。

松岡市郎町長は「会話、対話、友好



の和という3つの『ワ』を大切にしたい。融和、平和を一人ひとり担っていかねばならない」と話した。日か皆さんが東川に戻ってきて、一緒に楽しい仕事をすること、期待しています」と社会人の門出を祝いました。

一人ずつ登壇した出席者は、「ダーツでプロライセンスを取れるように頑張りたい」「自衛官として自覚ある行動で生活したい」「消防士として自覚し、深みのある大人になりたい」「社会保険労務士と中小企業診断士の資格を目指したい」「日本語を学んで、日本のIT系大学に留学したい」などと夢や希望を披露しました。

### スノーボード国際ワークショップ

1月2日、キトウシ森林公園キャンモアスキービレッジで東川町主催のスノーボード国際ワークショップ in 東川大会が開かれました。レース結果は2014年ロシア・ソチ五輪スノーボードパラレル大回転銀メダリストの竹内智香さん(33)を講師に、小、中

学生ら55人が参加してワークショップとアルペン種目のパラレル大回転レースを行いました。ワークショップは小学4年生以上が対象。経験者、初心者、中級別に、膝の屈伸のコツなど簡単な



なレッスンを行いました。その後、参加者はレース形式で18旗門の大回転競技に挑戦。スノーボードの楽しさを満喫しました。ワークショップはこの後、3月下旬旭岳で1泊2日のレッスンを開きます。

### 新年に誓い新たに、消防出初め式

1月5日、大雪消防組合東川消防団(金盛勇松団長、5分団89人)が消防出初め式を行い、災害ゼロへの誓いを気持ち新たにしました。

本格的な厳寒期を迎えて気温マイナス10度まで下がった午前10時、厳しい冷え込みの中77人が役場庁舎前に参列しました。



新たな年の防災を託して松岡市郎町長、高橋昭典町議会議長らが団員を観閲。その後団員が道道旭川旭岳温泉線(通称基線道路)の町内中心市街地約500mを分列行進して町民に防災への備えを披露しました。

分列行進後、東川町農協大ホールで同団の功績者表彰を行い、9人を表彰しました。表彰者は次の通り(敬称略)。

- ◇東川町長表彰
  - 勤続25年 津谷俊弘(第5分団部長)、高島郁宏(第1分団同) ▼同20年 矢澤睦(第5分団同)、高崎隆司(同班長) 花本直幸(第1分団同) ▼同15年 井澤延友(第2分団副分団長) ▼同10年 竹内一樹(同団員)
- ◇大雪消防組合管理者表彰

勤続20年 高崎隆司

(第5分団班長) 花本直幸(第1分団同) ▼

同10年 竹内一樹(第2分団団員)

◇東川消防団連合後援会長表彰

勤続5年 藤川貴康(第4分団団員)、樽井将人(同同)

◇北海道消防協会会長表彰

勤続20年 高崎隆司

◇北海道知事表彰

勤続20年 矢澤睦(第5分団部長)、高崎隆司(同班長) 花本直幸(第1分団同) ▼同10年 竹内一樹(第2分団団員)

### 仲谷さん、3人目の市民後見人研修修了

町内で活動する市民後見人として町社会福祉協議会の仲谷博文副会長(64)が町の市民後見人養成研修を修了し、1月18日松岡市郎町長から修了証書の伝達を受けました。

市民後見人の活動をするために欠かせない研修です。認知症、知的障害など日常生活に必要な判断能力が低下している

### 町内郵便局と地域見守り協定

1月6日、町内を担当区域にしている4郵便局と町との間で地域見守り協定を結びました。

日本郵便㈱の前野秀樹東川郵便局長、宮崎速人東川八号郵便局長、森田和仙東川北郵便局長、羽沢弘幸旭川東郵便局長がそろって来庁し、役場で「地域における協力に関する協定」を締結しました。



①高齢者、障がい者、子どもなど、住民の何らかの異常に気付いた時②道路の異常を発見した時③不法投棄の疑いがある廃棄物などを発見した時

は、町内の地域見守りネットワークは、町社会福祉協議会、コープさつぽろに続いて、昨年12月に町内の新聞販売店との間でも見守り協定がスタート。安心の態勢が整ってききました。

本人に代わって、代理行為を行う親族がいな場合、財産管理や契約などの法律行為を行うことが出来ます。

研修は旭川市と周辺8町が共同運営し



ている旭川成年後見人センターで実施。仲谷さんは町内5人目の研修修了者となりました。今後家庭裁判所からの選任を経ると、市民後見人として活動することが出来るようになります。